

第2学年4組 音楽科学習指導案

日 時：平成25年11月25日（月）5校時
場 所：松江市立第一中学校 第一音楽室
指導者：教諭 萬波 淳史

1 題材名 リズムの反復，変化，対照など構成を工夫して言葉によるリズムアンサンブルをつくろう。
～ 俳句を素材として ～

2 題材の目標

アンサンブルの素材となる言葉の抑揚やリズム，および反復，変化，対照などの構成を理解し，全体のまとまりを工夫しながら音楽をつくる能力を育てる。

3 題材設定の理由

(1) 題材について

第2学年及び第3学年の創作活動では，音素材の特徴を生かし反復，変化，対照などの構成や全体のまとまりを工夫しながら音楽をつくる能力を高めていくことをねらいとしている。

本題材では，A表現（3）創作イを指導事項と位置付け，その指導を実現していく内容を〔共通事項〕A「リズム」「速度」「テクスチャ」「強弱」「構成」を位置付けて題材を構成した。

今回は，俳句を題材にし，リズムアンサンブル曲づくりを行う。俳句は，五・七・五でつくられた日本独特の詩である。俳句にはリズム感があるとともにその言葉の響きからは季節，景色，色，匂い，温度，時間，味など様々なイメージをもつことができる。この俳句から発想されるイメージや言葉の抑揚を活かし，音を音楽へと構成し，またリズムの反復，変化，対照などの音楽を構成する原理にかかわらせ，音楽の全体的なまとまりを工夫しながら音楽をつくる能力を高めることができると考え，本題材を設定した。

(2) 生徒について・・・(省略)

(3) 指導にあたって

本題材では，楽曲の構造を理解するとともに，表現したいイメージをもち，音素材の特徴を生かし，反復，変化，対照などの構成や全体のまとまりを工夫しながらリズムアンサンブル曲をつくることで創作する喜びを体験させたい。

第1次では，既存の楽曲に触れることで，リズムの反復・変化・対照などの構成や各声部のリズムの重なり方などの曲のしくみについて知覚・感受させていきたい。

第2次では，前次で学んだことを生かし，俳句から発想されるイメージや言葉の抑揚を大切にしながら，リズムづくりをさせたい。また，リズムの重ね方や生かし方，構成を試行錯誤して全体のまとまりを工夫させたい。生徒の表現したいイメージをもたせるために，俳句にちなんだイメージ写真を掲示したり，参考音源を準備したりしながらイメージの喚起を図りたい。

本時の活動は，小グループ〔4人〕で取り組むことで，互いに意見を交流させることにより音楽に対する

多様な感じ方を共有しながら表現を工夫させていきたい。

リズムづくりにおいては、個人差が予想される。ワークシートを工夫したり、譜例や参考曲を準備したり、手順が分かるワークシートを準備することで、音を音楽へと構成していけるように支援したい。また、グループ編制にも配慮しながら、この活動を学び合いの場として記譜を苦手とする生徒への支援になるようにしていきたい。

リズムの重ね方については付箋を使い、つくったリズムの組み合わせをいろいろ試行できるようにし、表現したいイメージに近づけるようにしていきたい。

4 学習指導要領とのかかわり

(1) 本題材で指導する事項

A表現：(3) 創作	
	ア 言葉や音階などの特徴を生かし、表現を工夫して旋律をつくること。
○	イ 表現したいイメージをもち、音素材の特徴を生かし、反復、変化、対照などの構成や全体のまとまりを工夫しながら音楽をつくること。

(2) 取り扱う主な〔共通事項〕

ア	音色	/
	リズム	拍や拍子、リズムパターンとその反復と変化
	速度	表現したい曲想にふさわしい速度の設定
	旋律	/
	テクスチュア	音の組み合わせ方
	強弱	表現したい曲想にふさわしい強弱の設定、音楽全体や部分における強弱の変化
	形式	/
	構成	反復・変化・対照などの音楽を構成する原理
イ	用語や記号	/

5 教材

・おうまがとおる！〈言葉によるリズムアンサンブル〉 小林一茶の俳句より／滝口亮介 作曲

6 評価規準

(1) 領域・分野と評価の観点との関連


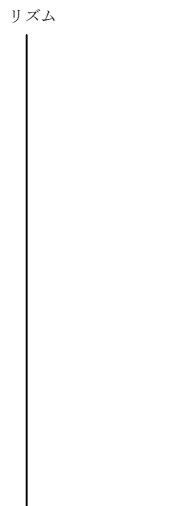
評価の観点 領域・分野	ア) 音楽への 関心・意欲・態度	イ) 音楽表現の創意工夫	ウ) 音楽表現の技能	エ) 鑑賞の能力
A・歌唱				
A・器楽				
A・創作	○	○	○	
B・鑑賞				

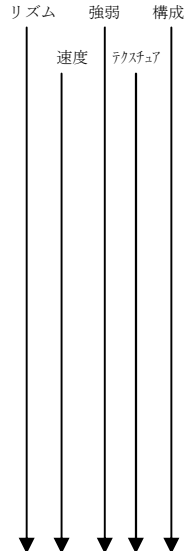
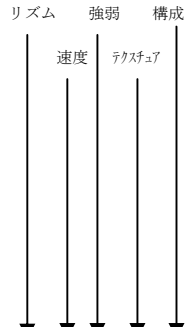
(2) 題材の評価規準

ア) 音楽への関心・意欲・態度	イ) 音楽表現の創意工夫	ウ) 音楽表現の技能
①曲のしくみ(リズムの反復・変化・重なり方)に関心をもち、それらを生かして表現する学習に主体的に取り組んでいる。	①リズムの反復、変化、対照などの音の重ね方や構成、速度、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じている。	①言葉の抑揚、句のイメージから湧くリズム、構成、速度、強弱などの特徴を生かした音楽表現するために必要なリズムの組み合わせ方、記譜の仕方などの技能を身につけて8小節のリズム

<p>②曲のしくみ（リズムの反復・変化・重なり方）に関心を持ち、それを生かしながら、リズムをつくる学習に主体的に取り組んでいる。</p> <p>③曲のしくみ（リズムの反復・変化・重なり方）に関心を持ち、それを生かしながら、構成したり、リズムを重ね合わせたり、速度や強弱を工夫して曲をつくる学習に主体的に取り組んでいる。</p>	<p>②リズムの特徴や俳句から湧くイメージを感じ取って、反復、変化、対照などの音の重ね方や構成、速度、強弱などを工夫し、どのように曲をつくるか思いや意図をもっている。</p>	<p>アンサンブル曲音楽をつくっている。</p>
---	---	--------------------------

7 指導と評価の計画（全4時間）

時	ねらい	○学習内容 ・学習活動	〔共通事項〕	評価	評価方法
1	<p>曲のしくみを理解し、リズムアンサンブルのおもしろさを味わうことができるようにする。</p>	<p>○「おうまがとおる！」をアンサンブルする。</p> <p>○曲のしくみを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・俳句を構成する言葉にふさわしいリズムは音符と休符で抑揚は2つの音高で表記されていることを理解する。 ・交互唱、音形の拡大、全パートのユニゾンなどの方法により重なり方があることを理解する。 <p>○アンサンブルの全体像をイメージし、それを目指して表現を工夫しながら演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・起承転結があることを感じ取る。 ・クライマックスや曲の終わりへ導くための強弱や音高を工夫する。 	<p>リズム テクスチャ</p> 	ア①	演奏の聴取 発言の内容
2	<p>リズムの反復、変化、対照などの音の重ね方や構成、テンポ、強弱から生み出す特質や雰囲気を感じ取って、それを生かしながら、いろいろなバリエーションのリズムをつくる活動に主体的に取り組むことができるようにする。</p>	<p>○句（言葉）の抑揚や俳句から湧くイメージをいかしながら、様々なバリエーション（基本・拡大・その他）のリズムをつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・曲のつくり方のポイント（曲のしくみ）を知る。 ・俳句を選ぶ。 ・俳句から感じるイメージをまとめる。 ・言葉の抑揚、リズムをつくる。 <p>○つくったリズムを紹介する。</p>	<p>リズム</p> 	ア② イ①	活動の様子 ワークシートの記述

3 (本時)	<p>曲の構成（リズムの重ね方，強弱，テンポ，言葉の構成）を工夫しながら2パート8小節のリズムアンサンブル曲つくる活動に主体的に取り組むことができるようにする。</p>	<p>○曲の構成（リズムの重ね方，強弱，速度，言葉の構成）を工夫しながら2パート8小節のリズムアンサンブル曲をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉（句）の構成 ・リズムの重ね方を考える。 ・強弱や速度を考える。 	<p>リズム 強弱 構成 速度 テクスチャ</p> 	ア③ イ②	活動の様子 ワークシートの記述
4	<p>リズムの組み合わせ方，記譜の仕方を身につけて，8小節のリズムアンサンブル曲をつくることができるようにする。</p>	<p>○つくったリズムアンサンブル曲を共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工夫した点（聴きどころ）や苦勞した点を紹介し，つくったリズムアンサンブル曲を演奏する。 ・感想を発表する。 ・代表作品をみんなで演奏する。 	<p>リズム 強弱 構成 速度 テクスチャ</p> 	ウ①	演奏の聴取

8 本時の学習（本時3／4）

(1) ねらい

曲の構成（リズムの重ね方，強弱，テンポ，言葉の構成）を工夫しながら2パート8小節のリズムアンサンブル曲つくる活動に主体的に取り組むことができるようにする。

(2) 展開

	・学習活動 ◇予想される生徒の反応	・教師の支援	評価規準と方法
導入	<p>・本時のめあてと前時つくったリズムを生かし曲づくりすることを知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>リズムの重ね方や強弱，テンポを工夫しながらリズムアンサンブル曲をつくってみよう！</p> </div>	<p>・前時つくったリズムを紹介し，学習内容を想起させる。</p>	

	<p>・曲のつくり方のポイント(曲のしくみ)を知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>リズムの重ね方 反復→同じリズムの繰り返し 変化→異なるリズムの重なり Tutti→全パートが同じ動き</p> <p>構成 言葉(句)の組み立て ※一例として起承転結</p> <p>リズムの重なりの生かし方 強弱 ※～のように のイメージで テンポ 全体, 部分</p> </div>	<p>・リズムの重ね方, 構成, リズムの重ね方の手掛かりになるように譜例や曲例を準備する。</p> <p>・各グループを廻りながら活動の様子を確かめ, 必要に応じて表現の手掛かりを助言する。</p>	<p>ア③ 活動の様子</p>
<p>展 開</p>	<p>・俳句から感じるイメージを生かしながら, つくったリズムを構成して, 小グループ(4人)で2パート8小節のリズムアンサンブル曲をつくる。</p> <p>①俳句のイメージから言葉(句)の構成を考える。 ◇構成に困っている。</p> <p>②リズムの重ね方を考える。 ◇機械的にリズムを並べている。 ◇つくったリズムを楽譜にできない。</p> <p>③リズムの生かし方(強弱, テンポ)を考える。 ◇どうしていいかわからない。</p>	<p>・俳句を朗読し, 湧いてくるイメージを確認したり, 出したりしながら句の組み合わせを考えてみるように助言する。</p> <p>・リズムを記入した付箋を使って組み合わせ方を考えるよう助言する。</p> <p>・声に出しながら耳で確認するように助言する。</p> <p>・既習曲の例を紹介する。</p> <p>・様々なテンポ, 強弱を試してみるように助言する。</p> <p>・強弱は単純に大小と考えずにイメージ的に考えるように助言する。</p>	<p>イ① ワークシートの記述</p>
<p>まとめ</p>	<p>・本時のめあてに基づいて学習の振り返りをする。</p> <p>・次時は, 工夫した点(聴きどころ)や苦勞した点を紹介し, つくったリズムアンサンブル曲を発表することを確認する。</p>	<p>・本時の学習内容を振り返り, めあてに基づく振り返りができるような発問を工夫する。</p> <p>・次回に向けての課題を明らかにさせておく。</p>	

(3) 本時の評価

【音楽への関心・意欲・態度】ア③

曲のしくみ（リズムの反復・変化・重なり方）に関心をもち、それを生かしながら、構成したり、リズムを重ね合わせたり、速度や強弱を工夫して曲をつくる学習に主体的に取り組んでいる。

生徒の姿 評価の観点	十分満足できると判断される 生徒の姿の具体例	おおむね満足できると 判断される生徒の姿の具体例	支援を必要とすると判断され る生徒の姿の具体例と支援
音楽への 関心・意欲 ・態度	<ul style="list-style-type: none"> 様々な言葉の組み合わせを試している。 様々なリズムの重ね方をグループの中で提案している。 繰り返し強弱やテンポ設定を試し、グループの中で提案している。 	<ul style="list-style-type: none"> 既習曲を真似ながら組み合わせを試している。 周囲と相談しながらリズムの組み合わせをつくっている。 繰り返し強弱やテンポ設定を試している。 	<ul style="list-style-type: none"> どうリズムを組み合わせればいいのか分からず活動に参加していない。 →既習曲を参考にしながら組み合わせをつくるように助言する。 楽譜にできず困っている。 →言葉で書くように助言する。 強弱やテンポをどうしたらよいかわからず困っている。 →既習曲の例やいろいろなパターンを試し、手掛かりとなるように支援する。

【音楽表現の創意工夫】イ②

リズムの特徴や俳句から湧くイメージを感じ取って、反復、変化、対照などの音の重ね方や構成、速度、強弱などを工夫し、どのように曲をつくるか思いや意図をもっている。

生徒の姿 評価の観点	十分満足できると判断される 生徒の姿の具体例	おおむね満足できると 判断される生徒の姿の具体例	支援を必要とすると判断され る生徒の姿の具体例と支援
音楽表現へ の創意工夫	<ul style="list-style-type: none"> 言葉の組み立て方について、試行しながら自分の考えを伝えている。 俳句のイメージやリズムの特徴を生かしながら、リズムの組み合わせを試行し、リズムの重ね方工夫している。 繰り返し演奏し、強弱をイメージ化したり、全体や部分のテンポの設定を考えたりし、リズムの生かし方を工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> 言葉の組み立て方について周りと一緒に考えている。 既習曲からの譜例や音例を参考にしながらリズムの組み合わせを工夫しようとしている。 強弱やテンポの工夫について、周りと一緒に考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> どう構成していいか困っている。 →俳句から湧くイメージを確認し、曲の全体についてイメージをもてるように支援する。 →既習曲の譜例を示しながら作品の手掛かりとなるように支援する。 リズムの重ね方に困っている。 →リズム（句）を記入した付箋を使って、いろいろなバリエーションを試し、自分たちのイメージに合う重ね方を見つけられるように支援する。

9 研究協議の視点

- ・小グループの活用は、主体的な取り組む態度を育てるために適切なものであったか。
- ・予想した生徒の具体的な姿や、その支援は適切であったか。

俳句からリズムアンサンブル曲をつくろう！

2年 組 番 氏名 ()

① 俳句を選ぼう。※○を付ける。

- A やせ蛙 負けるな一茶 これにあり (小林一茶)
- B 古池や 蛙飛びこむ 水の音 (松尾芭蕉)
- C 柿食えば 鐘が鳴るなり 法隆寺 (正岡子規)

俳句から感じられるイメージ (うかぶ景色, 音, 色, 時間, 季節など)

② 言葉の抑揚に合わせて基本・拡大・変化リズムを作ってみよう。

【言葉の抑揚】

【基本リズム】(青付箋)

【拡大リズム】(黄付箋)

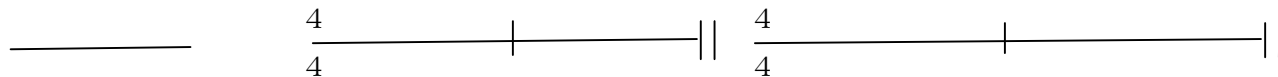
上の句



中の句

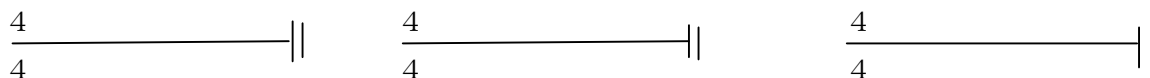


下の句

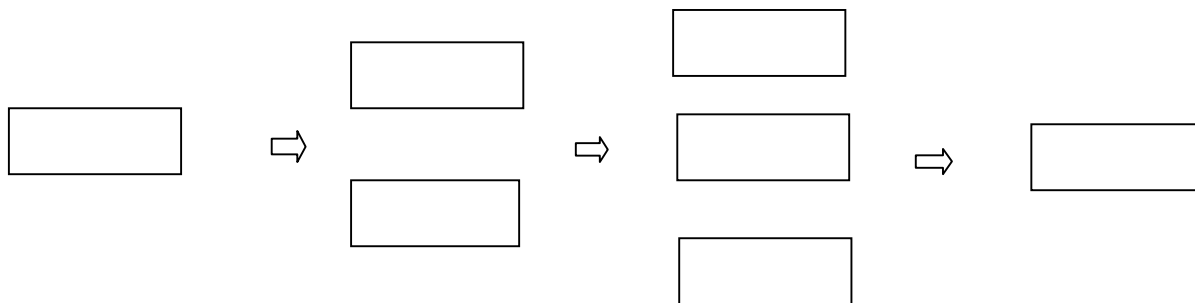


【変化リズム】(赤付箋)

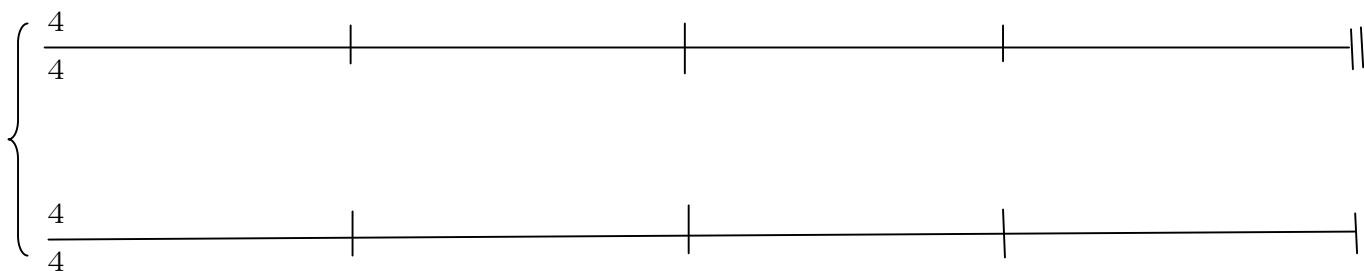
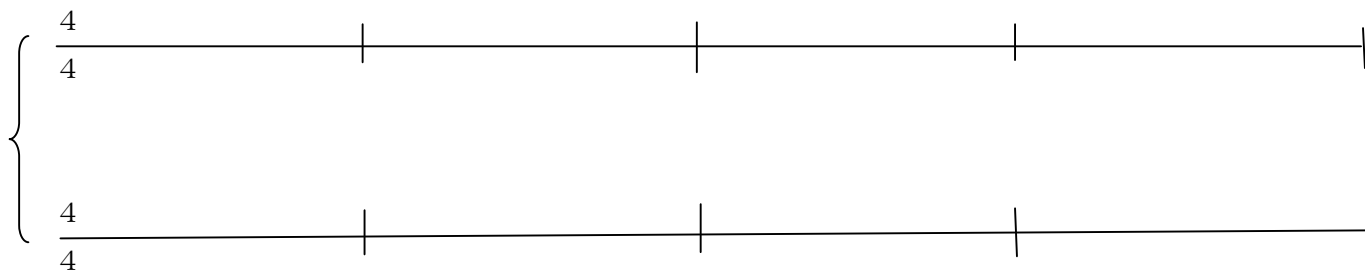
基本のリズムや拡大したリズムに変化を入れたり, 俳句からイメージされる音や擬音をリズムにしたりしてみよう。



③ 全体の構成（言葉〔句〕の組み立て）を考えよう。



④ 俳句から感じるイメージを大切にしながら、③で考えた構成に基づき、②で作ったリズムの重ね方や強弱、テンポを工夫しながら、2パート8小節のリズムアンサンブル曲をつくろう。



♪感想を書こう。（工夫した点や苦労した点、他のグループの良い点など）